

# だいじょうじ ⑥大乘寺跡

押野三・四丁目、横宮町、本町一・二丁目付近

大乘寺は、はじめは富樫家尚とがしいえひさが押野莊ちようかいに澄海じゆうじを住持として建てた密教寺院でしたが、家尚と澄海が永平寺から徹通義介てつとうぎかいを招いて、永仁元えいにん（1293）に加賀国最初の禪寺として開かれました。4代目の明峰素哲めいほうそてつは富樫氏いえよしの出身といわれ、貞和二年（1346）に富樫家善から寄進を受けるなど、富樫氏と密接な関係をもつと同時に大乘寺の基盤強化を図りました。

なお、大乘寺の範囲については、押野館跡がある押野三丁目から本町一丁目、横宮町、金沢市横川町の日吉神社辺りまでと推測されています。

一向一揆の混乱により、野々市での大乘寺の記録はわからなくなりますが、江戸時代には、加賀藩前田氏の庇護ひごのもと、金沢城下の木新保きのしんぼに寺地を得ました。後に、家老本多家ほんだの菩提寺として、金沢市本多町に移ります。そして元禄十年（1697）に、現在の金沢市長坂町ながさかに移転しています。



大乘寺跡石碑